

シンポジウム
成功に導くシステム統合の論点
- ビジネス・システムと統合した情報システムが成否の鍵を握る -
開催のお知らせ

経営情報学会
システム統合特設研究部会主査 飯島淳一

昨今の厳しい経済環境の中、さまざまな分野で企業統合、業務統合が行われています。ビジネス・システムの統合に伴い、それを支援する情報システムの統合も必要となりますが、そこではしばしばシステム障害が発生し、社会的な問題となっております。先日も、大手都市銀行の合併が、システム統合に関わる問題を理由に、延期になりました。

経営情報学会『システム統合』特設研究部会では、システム統合を成功に導くためには何が必要なのかについて、2年間の研究活動を行って参りました。このたび、研究活動をまとめたものを著作として刊行し、それに伴って、下記のとおりシンポジウムを開催することにいたしました。われわれのメッセージは、「統合後のビジネス・システムに整合する情報システムを構築することが、もっとも重要である」というものです。多数の方々のご参加をお待ち申し上げます。

記

日時:2005年10月28日(金) 13:30-17:00 (受付:13:00~)

場所: キャンパスイノベーションセンター1F 国際会議室

東京都港区芝浦3-3-6

アクセス: JR山手線・京浜東北線 田町駅(徒歩1分),

都営三田線・浅草線三田駅(徒歩5分)

<http://www.isl.or.jp/campusinnovation.html>

内容:

第一部 講演 13:30-15:20

13:30 - 13:35 開会の辞

13:35 - 13:40 会長挨拶 平野雅章 経営情報学会会長

13:40 - 13:50 「成功に導くシステム統合の論点」刊行にあたって
飯島淳一(システム統合特設研究部会主査)

13:50-14:20 「概念スキーマとシステム統合」
手島歩三(ビジネス情報システムアーキテクト)

14:20-14:50 「概念データモデルベースのシステム開発 - KDDI のケース」

繁野高仁 (KDDI 執行役員情報システム本部長)

14:50-15:20 「統合を容易とするアーキテクチャ:金融・サービス業におけるコンポーネントベースアプローチ」

森田勝弘 (県立広島大学経営情報学部教授,
法務省CIO補佐官)

休憩 15:20-15:40

第二部 ディスカッション 15:40-17:00

15:40 - 16:50 フロアと部会メンバーとのディスカッション

16:50 - 17:00 閉会の辞

主催: 経営情報学会

協賛: AIS 日本支部 (JPAIS), オフィス・オートメーション学会,
日経情報ストラテジー誌, 日経 IT プロフェッショナル誌,
日経コンピュータ誌,
(社)日本情報システム・ユーザ協会 (JUAS), 情報システム学会
(社)日本経営工学会,

(以下, 依頼中)

情報処理学会「情報システムと社会環境」研究会,
(社)情報サービス産業協会 (JISA),

会費: 10,000 円

(ただし, 講演資料ならびにシステム統合特設研究部会編の『成功に導くシステム統合の論点 - ビジネス・システムと整合した情報システムが成否の鍵を握る - 』(日科技連出版社, 定価 3,675 円, 2005 年 10 月発売)を差し上げます)

参加希望の方は, is-event@me.titech.ac.jp 宛てメールにて, 10 月 15 日(土)までにご氏名とご所属をお知らせください。

以上

まえがき

2002年4月1日に発生した、大手銀行のシステム障害事件は、まだ記憶に新しい。また、つい最近も東京三菱銀行とUFJ銀行の合併が、システム統合によるトラブル発生を回避し、より高い次元の安全性を確認するために延期になった。これらの出来事は、M&Aなどにもなう情報システム統合の難しさを、改めて強く印象づけるものとなった。

さて本書は、経営情報学会「システム統合」特設研究部会による、2年間の研究成果をまとめたものである。

経営情報学会は、1992年に設立された、会員約1,700名の日本学術会議登録学会であり、情報と情報技術の活用について、産官学・文理が融合して相互に研鑽しながら、研究・学習することを目指すフォーラムである。この領域では日本最大の学会で、論文誌発行(年4回)・研究発表大会開催(年2回)の他、シンポジウム開催や研究会の運営・サポートを行っている。

特設研究部会という組織構成は、会長直下のトップダウンでテーマやメンバーの選定が行われる研究部会で、すでに、「経営情報学カリキュラム(主査：遠山 暁)」、「情報倫理(主査：村田 潔)の2つの部会が活動を行ってきている。現在、経営情報学会で設置している特設研究部会には、2005年4月から発足した、「情報投資と経営成果(主査：平野雅章)がある。

経営情報学会では冒頭で述べた大手銀行のシステム障害事件を契機に、社会的なニーズの極めて高い研究分野として、「システムの統合」について学会としても取り上げるべきであるとの認識が広まった。これを踏まえて、2002年6月1日、2日の両日に開催された春季研究発表全国大会(場所：東京工業大学)において、「M&Aに伴うITインフラマネジメント」と題する特設パネルディスカッションが開催され、システム統合に関する特設研究部会の設置準備が始められた。このパネルディスカッションはかなり高い関心を集め、このテーマの重要性と今日的意味について再認識することになった。

これを受けて，2002年10月から準備会が開催され，2003年1月の理事会で，第三の特設研究部会として設置が認められ，2003年4月から本格的な活動を開始し，2005年3月でその活動を終了した．

この特設研究部会「システム統合」のメンバーは次のとおりである(敬称略)．

主査 飯島 淳一 東京工業大学・大学院社会理工学研究科
伊藤 誠彦 日本アイ・ビー・エム研修サービス(株)
岩田 裕道 (故人)BISA パートナー
繁野 高仁 KDDI(株)
島田 裕次 東京ガス(株)
手島 歩三 (有)ビジネス情報システム・アーキテクト(BISA)
南波 幸雄 (有)エスバーク・コンサルティング(部会発足時は，マ
ネックス証券(株))
森田 勝弘 県立広島大学，法務省CIO補佐官(部会発足時は，ア
クセンチュア(株))
山本修一郎 (株)NTTデータ

本書の主要なメッセージは，情報システム統合は，それが支援するビジネスシステムの統合なくしては語れないものであり，ビジネスシステムを支えるアーキテクチャと情報システムアーキテクチャの整合性(アラインメント)が，システム統合の成否を決める最も重要な要因である，というものである．

最後に，本書に収めたいいくつかの事例について，資料提供ならびにヒアリングに応じていただいた，浜田達夫氏(第11章)，佐藤正敏氏(第14章)，小坂志郎氏(第14章)，辻誠一氏(第16章)，織田孝司氏(第16章)，久島道夫氏(第17章)，高向宏氏(第17章)に感謝の意を表する．

また，日科技連出版社の鈴木兄宏さんには大変お世話になった．ここに深く感謝申し上げたい．

2005年9月

著者を代表して 飯 島 淳 一

目 次

まえがき iii

第 1 章 システム統合論の構築に向けて	1
1.1 システム統合論の必要性	1
1.2 システム統合とは	2
1.3 システム統合における経過措置としての類型	5
1.4 本書の構成	8
1.5 今後の展望	9

第 部 システム統合におけるアーキテクチャ概念の重要性

第 2 章 エンタープライズアーキテクチャ	13
2.1 EA を構成する3つの要素	14
2.2 EA 論の歴史	19
2.3 さまざまなEAフレームワーク	21
2.4 わが国でのEA論	23
2.5 EAの意味するもの	24
2.6 EA実践における問題点	24
2.7 まとめ	26
第 3 章 情報システムアーキテクチャと情報基盤整備	29
3.1 情報基盤整備	29
3.2 情報システムアーキテクチャ	32
3.3 まとめ	40
第 4 章 ビジネスアーキテクチャ	43
4.1 ビジネスアーキテクチャと情報システム整合の失敗例	43
4.2 EAとはビジネスアーキテクチャと情報システムの整合を図るアプローチ	45
4.3 ビジネスアーキテクチャをとらえる	47
4.4 製造ビジネスアーキテクチャと情報システムアーキテクチャ	49

第 部 ビジネスシステムと統合した情報システムの構築

第 5 章	IT ガバナンスとシステム統合	59
5.1	IT ガバナンスとは何か	59
5.2	IT ガバナンスと EA の関係	61
5.3	IT ガバナンスとシステム監査	63
5.4	システム統合における IT ガバナンスの重要性	67
5.5	システム統合のチェックリスト	71
第 6 章	企業情報システムにおけるシステム統合と 都市計画アプローチ	79
6.1	企業情報システム都市計画アプローチ	80
6.2	情報システムの連携・統合と EIS 都市計画アプローチ	86
6.3	まとめ	90
第 7 章	統合を容易とするアーキテクチャ 金融・サービス業におけるコンポーネントベースアプローチ	93
7.1	変化に強いアーキテクチャの要件	94
7.2	アーキテクチャフレームワーク	97
7.3	実装アーキテクチャ	101
7.4	まとめ	105
第 8 章	概念スキーマとシステム統合	107
8.1	情報システム統合とデータ仕様	107
8.2	概念スキーマ	110
8.3	概念スキーマを利用するデータ仕様変換	114
8.4	情報システムアーキテクチャと概念データモデル	116
第 9 章	KDDI の事例 概念データモデルによるシステム統合	121
9.1	事例の背景	121
9.2	構造改革の全体構想	125
9.3	プロジェクトの運営	137
9.4	構造改革の効果	142
9.5	システム統合の成功要因	144

第 10 章	段階的システム統合活動のプログラムマネジメント	147
10.1	継続的システム統合	147
10.2	ビジネス改革とシステム統合の関係	149
10.3	情報システム整合	150
10.4	フィージビリティスタディとビジネス改革プログラムマネジメント	152
第 11 章	日本航空におけるシステム統合の事例	155
11.1	事例の背景	155
11.2	経営統合にともなうシステム統合	156
11.3	システム統合におけるプロジェクトマネジメント	159
11.4	システム統合プロジェクトの成功要因	161
第 部	事例に学ぶシステム統合の実際	
第 12 章	金融業におけるシステム統合 銀行を中心として	165
12.1	銀行の経営統合の目的と効果	166
12.2	銀行の経営統合におけるシステム統合の重要性	170
12.3	システム統合を成功させるための方法	175
12.4	システム統合の成否はITガバナンスに依存	180
第 13 章	みずほFGのシステム統合作業の事例に見る プロジェクトマネジメントのキーポイント	183
13.1	システム統合の流れと分析のポイント	185
13.2	個々の分析とその教訓	191
13.3	ITサービスにおける真のマネジメントプロセスを手に入れるために	199
第 14 章	損害保険ジャパンにおけるシステム統合の事例	201
14.1	事例の背景	201
14.2	経営統合にともなうシステム統合	202
14.3	システム統合におけるプロジェクトマネジメント	204
14.4	システム統合プロジェクトの成功要因	206
第 15 章	製造業のシステム統合	207
15.1	ビジネス改革と情報システム統合	207
15.2	製造業システム統合の困難	210

目次

15.3	製造情報システム統合の進め方	214	
15.4	情報システム統合の形態	217	
15.5	おわりに	220	
第16章	荏原製作所におけるシステム統合の事例		221
16.1	事例の背景	221	
16.2	オープン系統合システムの構築	222	
16.3	全社サーバー統合	223	
16.4	システム統合プロジェクトの成功要因	226	
第17章	コニカミノルタホールディングスにおける システム統合の事例		229
17.1	事例の背景	229	
17.2	経営統合にともなうシステム統合	230	
17.3	会計システムの統合	231	
17.4	システム統合プロジェクトの成功要因	233	
補遺	政府機関におけるEAへの取り組み状況と問題点		235
1.	はじめに	235	
2.	統一的な業務とシステムの管理手法としてのEA	235	
3.	「業務・システム最適化計画」の策定アプローチ	237	
4.	現状のアプローチにおける問題点	239	
5.	まとめ	240	
索引		242	